

【授業科目名】 技術倫理 Engineering Ethics

【学年・学科】 5年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 2単位 必履修

【達成目標】 A-1

【授業形態】 講義

【分野】 人文・社会系 (一般)

【担当教員】 小川 清次

【授業概要】

ものづくりを通じた人間同士の関わり方に視点を置き、技術者に要求される倫理的有り方を考える。現代社会に見出される技術や人工物を巡る具体的諸問題を取り上げ、組織の中の技術者としての有り方や行動、そして、組織の責任などについて考えてゆく。

【授業の進め方】

文献資料やビデオ(DVD)教材等により諸事例の紹介を行い、技術倫理の基礎的諸問題を考える。

【科目の達成目標】

1. 人間と科学技術との関係を批判的に考えることができる。
2. 自らの専門分野が社会の中でどのような位置を占めるのか、考えることができる。
3. 自らの専門分野に潜在する倫理的諸問題を理解できる。
4. 具体的問題に直面した時の問題解決の方策を考えることができる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	2	授業の進め方の説明。また、技術倫理全体を概観する。
技術と倫理	8	技術行為における倫理概念や規範を概観する。 ・倫理概念 ・義務論、功利主義 ・責任 ・世代間倫理 ・安全と安心
事例研究	18	具体的事例に即して技術者および組織の責任について考察する。 ・技術者の責任遂行 ・組織の中の技術者 企業の社会的責任 ・工程管理 ・維持管理 ・環境への配慮
フィードバック	2	試験解説など
製造物への責任 (I)	8	製品の安全性と法律との関係を概観する。 ・製品事故と法律 ・製造物責任法など
製造物への責任 (II)	6	事故原因の究明の意義および倫理的意味を考察する。
製造物への責任 (III)	8	組織的不正行為について考察する。 ・リコール情報、不具合、欠陥隠し ・内部告発
信頼と良心	2	信頼構造の分析を通じて組織と社会との関わり方を考察する。 ・信頼 ・CSR ・良心
環境への視点	4	持続的社会の可能性をCSR, 3R, CE (サーキュラーエコノミー) を手掛かりに考察する。
フィードバック	2	試験解説など

【授業時間外の学習】

人工物や環境に関わるニュースに親しく接しておくこと。

前期には練習レポートを数本提示する。これは課題ではなく、したがって、成績評価に数字として直接反映するものではないが、レポートを書く上で役に立つ。

【履修上の注意点】

本科目では教科書の記述についての理解は既に前提されている。教科書や授業内容から導出される問題や課題について、各自がどのように考え、如何に分かり易く他者に伝達できるか、ということが重視される。

【成績評価の方法】

1. 定期試験により評価する
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする

【関連科目】 現代社会、環境科学概論、法と経済、企業経営、環境科学

【教科書等】 はじめての工学倫理 (第3版) 齋藤ほか編 昭和堂

【参考書】 安全と安心の科学 村上陽一郎著 集英社
環境倫理学のすすめ 加藤尚武著 丸善